

高齢化が急速に進む現在、認知症患者も増え、がん
と認知症との併存も大きな問題になっている。そこで、
学術セミナー（「認知症の診断と治療の可能性」木村武実
先生：国立病院機構菊池病院）、特別講演（「この町で生
ききるために」宇都宮 宏子 先生：在宅ケア移行支援研
究所）、シンポジウム（「がん認知症～病院と地域の
チーム医療」病院緩和医・在宅医・ケアマネジャー・が
ん相談員の発表と総合討論）を企画し、＜がん認知
症のチーム医療＞について討論を行った。また、医療
マネジメントに関する一般演題34題に加えて、初の試
みとして『新人セッション』を企画し10人が初めての発
表に挑戦した（最優秀新人賞1人、優秀新人賞2人を表
彰）。参加者は県外医療者やスタッフを含めて約280名
に達し、盛会裡に終了することができた。

第13回佐賀支部学術集会

学術集会会長：佐賀県医療センター好生館館長
檉木 等



会場風景

2015年2月
28日（土）、「地
域包括ケアシ
ステム～医療
機関のかかわ
り～」をテー
マに、日本医
療マネジメント
学会第13
回佐賀支部学

術集会を佐賀市のアバンセにて開催しました。

学術集会では、一般演題30題に加え、10題のポス
ターコーナーを設け、特別講演として厚生労働省審議官
原 勝則 先生に「地域包括ケアシステムの構築と医療機
関のかかわり」をテーマにご講演をいただきました。

また、シンポジウムとして「地域包括ケアシステム
をシームレスにするためには」をテーマに佐賀県でこ
の事業に深く関連し、ご活躍の4人のシンポジストに
佐賀県の現状とこれからの展望をご教示していただき
ました。

医療、介護、福祉機関がお互いに情報共有を行い、
県民に安全・安心な地域包括ケアシステムを提供しな
ければならないことについて、理解を深めることがで
きました。

最後に、学術集会の開催にあたり、関係各位の皆様
方に多大なるご支援とご協力を賜り、本会が盛会のう
ちに終了できましたことを深く感謝申し上げます。

第14回神奈川支部学術集会

学術集会会長：恩賜財団済生会横浜市南部病院病院長 今田敏夫

2015年3月7日（土）、横浜駅に隣接した新都市ホー
ルにて、第14回神奈川支部学術集会が開催されまし
た。「医療機能の向上と連携の深化ー共想、共有、共
働そして共育」というテーマの下、74演題、445名の
多職種参加の盛大な会となりました。特別講演には
近森正幸 先生（高知県近森病院院長）をお招きし、「医療
機能の絞り込みと連携～医師中心のピラミッド型組織
から多職種によるフラットな組織へ～」というご講演を
いただきました。午後から行われたシンポジウムでは
「病院多職種連携で医療安全を考える～医療機能の向上
と連携の深化～」というテーマで、医師、薬剤師、看護
師、臨床工学技士、事務職という多職種の医療安全責
任者による活発なディスカッションが行われました。
当日は他にもランチョンセミナー2題、スイーツセミ
ナー1題に加え企業展示（10社）などが企画されました。
他にも新たな試みとして、多職種共働による ①「医療
チームで患者を守る～錠剤の特性や経管投与方法の理
解を深める～口腔内崩壊錠の有用性の体験と簡易懸濁
法の実践」42名参加 ②「最新の医療機器を使ってみ
よう～在宅医療体験セミナー～」25名参加 ③「抗がん
剤の曝露対策について考える～曝露の体験学習と対
策について～」20名参加の3つのワークショップを開
催しました。さらには本学術集会の特別企画としてタ
ニタ食堂による「タニタ食堂レシピに学ぶ 健康セミ
ナー」という市民公開講座を開催し、好評を博しまし
た。自由闊達な風土の神奈川に合った学術集会という
ことで新たな試みも成功裏に終わり、過去最高の参加
となったことは関係各位のご協力の賜物と感謝申し上げ
ます。

第14回香川支部学術集会

学術集会会長：四国こどもとおとなの医療センター院長
中川義信

2015年3月7日（土）に第14回日本医療マネジメン
ト学会香川支部学術集会を、独立行政法人国立病院機
構四国こどもとおとなの医療センターにおいて開催い
たしました。

本学術集会では病床機能報告制度や、「地域医療構
想策定のためのガイドライン」の策定といった状況を見据
え「病院・病床機能分化を見据えた看護の役割と病院マ
ネジメントの有り方」と致しました。

特別講演としては昨年末より世界的な問題となっ
ていたエボラ出血熱について「エボラ出血熱に関する国内